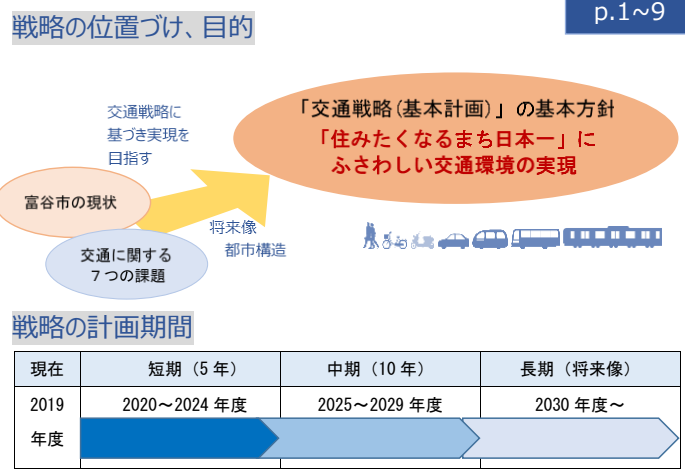


序章 総合交通戦略について

将来都市像に向け、徒歩、自転車、公共交通、自動車などの交通を、市民本位の利用しやすい交通体系にするため、「都市・地域総合交通戦略(基本計画)」を策定しました。

【計画期間】 短期的取組として5年後、中期的取組として都市の発展・成熟を想定し10年後、長期的な取組として2030年度以降として設定。



第1章 現状と課題、第2章 目指す将来交通像(戦略の柱)

Basic policy and future city structure. Includes the goal of a livable transportation environment and a map of the city structure with axes and nodes.

Table of transportation issues (課題) and strategic pillars (戦略の柱). Issues 1-7 are listed on the left, and pillars 1-3 are detailed on the right, with a timeline for future images 1, 2, and 3.

第3章 将来像に向けた施策

3つの戦略の柱に対応する形で、12の施策を設定します。次頁に中心となる施策①(幹線交通に関する施策)、施策⑤(フィーダー交通に関する施策)について詳細を示します。

Table of 12 measures (施策) categorized by strategic pillar. Each measure includes implementation content, implementation entity, and a timeline from 2020 to 2030.

▶ 1. 幹線交通の強化 [戦略の柱1に対応]

p.52~55

施策① 新たな軸となる基幹公共交通の整備

【第1ステップ（短中期）：既存バスを中心とした対応】
既存バス路線を活用し、都市主軸、都市副軸を中心に分かりやすさ向上や路線の維持強化

【第2ステップ（長期）：新たな方策による基幹公共交通軸の強化】
明石台-泉中央駅間の新たな公共交通軸の導入による機能強化

地下鉄整備もしくは
 ガイドウェイ・トランジット整備を想定

○地下鉄整備による運行形態

①整備内容

地下鉄の整備について検討

- 利点1 仙台市方面へ乗継なしで移動可能、所要時間の大幅短縮
- 利点2 混雑区間(将監トンネル)の回避によるバス運行の効率化
- 利点3 地下空間の活用による地上への影響を最小限化

②事業化検討 ※泉中央駅から明石台地区までの参考経費

※実現に向けては、事業費、運行経費、乗客予測のほか、ルート、路線バス、駐車場確保などの課題があり、本事業案については、今後、関係者間で課題解決に向けて協議を行う必要がある。

| | |
|-------------|--|
| 概算事業費 | 約 400~600 億円 (参考値) |
| 運行経費 | 約 4.3 億円/年 ※ピーク時 6 往復/時、オフピーク時 3 往復/時と仮定 |
| 事業化に必要な乗客数※ | 1 日約 16,200~18,700 人 ※事業費、経費を考慮した、整備区間の採算性が確保される乗客数 →仙台市方面への鉄道、バス利用者(約 7,800 名)の他、自動車利用から約 8,400~10,900 人の利用転換を図る |

※想定する事業規模(事業費、運行経費)に対して事業として成立するために必要な乗客数。
 ※仙台都市圏 PT 調査結果を踏まえ、富谷市-仙台市間の軸上の移動の総ボリュームとして、現在の鉄道・バス需要が 7,800 人あり、加えて事業成立のためには現在の自動車需要 5 万人から 2 割程度にあたる 1 万人の転換を見込む必要がある。これは、市民の公共交通を中心とした生活スタイルの変更や、基幹交通へのアクセス交通の整備等の取組みを、総合的に展開していくことが求められる。
 ※必要となる乗客数や、その可能性については仙台都市圏総合都市交通協議会とも連携し、広域移動の視点も踏まえ、今後、検討していく。

③実現に向け連携する施策 ※需要の促進、アクセス交通の確保

| | |
|--------|--|
| 路線バス再編 | ・市内の各地域から明石台を結ぶバス網を形成 → 路線バスを活用した移動を確立 ※市内各所から地下鉄駅へのアクセスを確保する必要があり、重要施策となる |
| 結節整備 | ・明石台周辺に路線バス等の拠点となるターミナルを整備 円滑な乗継に向けた受け皿確保 |
| 利用促進事業 | ・総合時刻表、モビリティ・マネジメント等の展開 → クルマ移動から公共交通移動へのシフト |

○新交通システム(ガイドウェイ・トランジット)整備による運行形態

①整備内容

明石台~泉中央駅間に高架道路を整備し、
 路線バス車両が乗入れ運行

- 利点1 混雑区間(将監トンネル)の定時性、速達性の確保
- 利点2 多方面路線の活用可能(路線バスの専用空間への乗入れ運行)

②事業費 ※泉中央駅から明石台地区までの参考経費

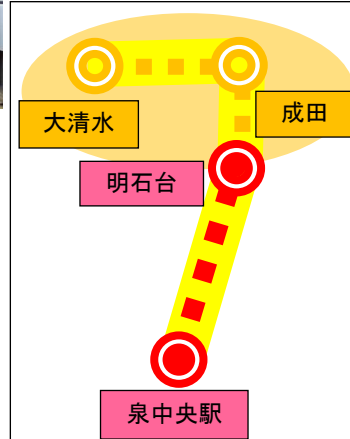
概算事業費(事例等に基づき算出した参考値。)
 専用高架部 整備費:約 170 億円

事業スキームの選択肢

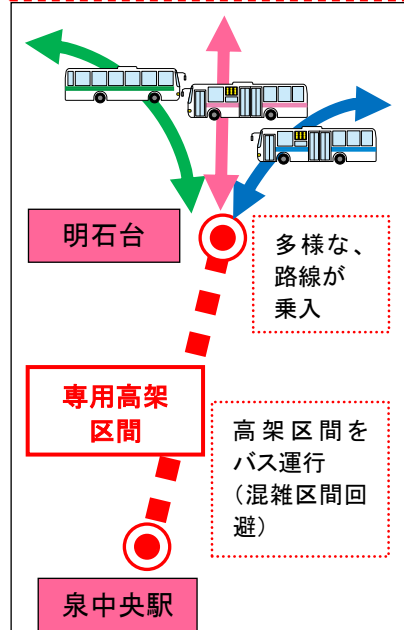
- ・公設民営(運行事業者は既存バス会社)
 【※専用空間は無料または有料ケース】
- ・公設民営(運行事業者は新会社)
- ・民設民営(新交通としての整備、運営)



地下鉄整備区間イメージ



高架区間への乗入れイメージ



▶ 2. フィーダー交通の充実 [戦略の柱2に対応]

p.60~63

施策⑤ 市民バスの再編 (富谷市・市民バス)

○各交通手段の目指す姿

| | | |
|------|--------|--|
| 目指す姿 | 市民バス | 民間路線バスの補完として、市内各地域と市内主要施設を結び、高齢者など公共交通を必要とする方の移動の支えとなる |
| | 民間路線バス | 市内の拠点間、仙台市方面を結び、市内外への日常的な移動を支える |
| | 鉄道 | 富谷市内と仙台市方面を高速で結び、都市間移動の利便性を高める |

○目指す姿を踏まえた市民バスの現状と課題

| | | |
|-------|----------------------------|--|
| 現状・課題 | 西部循環線 南部循環線 | ・利用が多く実績は好調であるが、乗り切れない場合もあるため、 ニーズに応じた運行本数の増便 が必要 |
| | 北部黒川病院線 | ・朝夕は通学利用が見られるが日中は利用が少なく、運行エリアも低密度かつ広範囲であることから、 通学利用をカバーしながら、広範囲なエリアをカバーする運行形態への見直し が必要 |
| | 東部循環線 大亀山森林公園線 大亀成田線 | ・運行本数、利用者数ともに少ないが、東部循環線、大亀山森林公園線は朝夕は児童の通学利用が見られるため、 朝夕は現行路線維持、日中は広範囲なエリアをカバーする運行形態への見直し が必要 |

○短期、中期、長期の再編方針

| 再編の考え方 | 施策の期間 | 短期 (~5年) | 中期 (~10年) | 長期 (10年~) |
|--------|----------------------------|---|---|---|
| | | 施策の方向性 現状の課題を解決し利便性を向上 → 需要があるエリアでの運行本数増 → 広範囲なエリアをカバーする運行形態 | 現状の課題を解決し利便性を向上 → 需要があるエリアでの運行本数増 → 広範囲なエリアをカバーする運行形態 | 民間路線バス見直しとの連携、技術革新取入 → 民間路線バスや各種施設へのアクセスの強化 → MaaS等の活用による使いやすさの向上 |
| 再編方針 | 西部循環線 南部循環線 | 需要に合うダイヤ変更 増便によるサービス強化 | 民間路線バスの補完として 地域の足を確保する再編 | 明石台地区を起点とした 路線バスの補完として再編 |
| | 北部黒川病院線 | 朝夕は通学路線、日中はデマンド(予約)型交通による運行 | 短期の再編に加え、民間路線バスとの接続を強化 | 中期の施策を維持 |
| | 東部循環線 大亀山森林公園線 大亀成田線 | 東部地域全体をカバーするデマンド(予約)型交通を運行、朝夕は通学路線を維持 | 短期の再編に加え、自動運転や MaaS 等の技術進展を踏まえ、運行効率化 | 中期の施策を維持 |

第4章 実現に向けて

p.71~74

【目標指標の設定】基本方針達成に向けた「まちづくりの視点」に基づく目標指標と、戦略の柱に対応した交通の視点に基づく目標指標を体系立てて設定します。

| まちづくりの視点による目標指標設定 | 交通の視点による目標指標設定 | | |
|--|--|--|--|
| 【全体目標】 ①人口増 ②暮らしたい理由 富谷市のまちづくりの実現に向け進んでいるか | 【戦略の柱1に対する目標指標】 ①鉄道・バスの利用 ②乗り継ぎ利用 内外の利用が促進されているか | 【戦略の柱2に対する目標指標】 ①市民バス利用率 ②市民バス利用数 市内の利用が促進されているか | 【戦略の柱3に対する目標指標】 ①多様な取組 ②市民協働の取組 多様な取組み、市民協働が促進されているか |

【進捗管理、計画推進】実施プロセスや課題の共有、施策実施後の評価指標の達成状況の評価・検証を踏まえ、適宜改善・見直しを行うPDCAサイクルにより、進捗管理を行います。